

日本災害看護学会先遣隊 令和5年5月石川県能登地方地震活動報告

2023年5月10日(水)

活動隊員：酒井明子、朝田和枝

1. 活動日時

令和5年5月10日(水) 7:15-18:00

2. 活動場所

石川県珠洲市避難所(正院小学校)、正院小学校で避難生活を送っている方の自宅、  
正院町周辺の在宅避難者宅

3. 被害状況

地震発生5日目。7時14分ごろ能登半島沖を震源地とする最大震度4の地震を観測した。震源のマグニチュードは5.0、震源の深さは約10kmである。更に9時54分ごろ、能登半島沖で最大震度3の地震を観測した。震源のマグニチュードは5.1、震源の深さは約10kmである。地震発生以来、能登半島沖を震源とする震度1以上の地震は92回発生している。

人的被害：死者1名、重傷2名、軽傷31名

住宅被害：全壊9棟、半壊9棟、一部損壊452棟(5月10日現在)

4. 天候

晴れ 最高気温21度 最低気温11度

5. 活動の実際

7:15 輪島市ホテル出発

8:40 正院小学校避難所で事前環境確認

避難者は15名、日中避難者は0名

日中は自宅の片付けを行い、夜間のみ避難所に来る方が多い。

近隣の方がブルーシートを取りにくる。

9:00 珠洲市健康増進センター(保健医療福祉調整本部)にてミーティング

【昨日の課題共有と対応】

- ・ 本日より入浴支援開始(あみだ湯 月・水・金)入浴待っている方5~6名。
- ・ 正院小学校避難所に毛布50枚、ウレタンマット50枚搬入予定(段ボールベッドの上に敷くため、敷き方、安楽性など確認する必要がある)
- ・ ラップポン設定
- ・ 配食も流動飯が出るようになる。
- ・ 在宅一人暮らし高齢者の訪問5/9は62軒
- ・ 宝立公民館：避難者1名(市より宿泊先探す)
- ・ 蛸島公民館：避難者1名(珠州市総合病院にレスパイト入院)

- ・ 本日一人暮らし高齢者の訪問は 169 軒予定（午前午後合わせて 10 チーム）
- ・ 聴覚障害者の訪問（福祉課）5/15～60 名予定（1 日 6 名で 10 日間）
- ・ 住居の応急危険度判定希望が何件かある。応急危険度判定と被害認定調査は異なる。5 月 9 日から罹災証明書の受付が開始されているため、まず、市民課にて、罹災証明書の申請を行う必要があることを広報すべきである。市の HP に掲載されているが、申請しなければならないことや写真や図面を添付することは理解できていないと思われる。訪問時に罹災証明に関するチラシを配布する。
- ・ 5 月 11 日からボランティアセンター稼働開始予定。

9:30 巡回班 ミーティング 名簿の抽出準備がスムーズになるように調整している。

10:00 正院小学校避難所 訪問

- ・ 換気：テント内の臭いと空気の澱みがあるため、全部の窓を開放し、午前中は空気の入れ替え
- ・ 物資の壇上やピアノの上など、埃がたまっているため、消毒と清掃
- ・ トイレ掃除およびトイレ用備品確認と調達（おむつ入れ・ごみ入れ・掃除用具）
- ・ 避難者の寝床の消毒
- ・ 退去者の毛布のクリーニング
- ・ ごみ集め
- ・ 玄関に靴着脱用の椅子の設置
- ・ 環境アセスメントシートの下準備
- ・ ウレタンマットの設置
- ・ 避難者のアセスメントシートの継続利用の確認

11:20 正院小学校出発

避難所避難者の自宅訪問（15 名）し、応急危険度判定、罹災証明の有無、被害状況、避難所生活継続の意志について調査する。

断水のため数日のみ滞在予定の方と全壊・半壊・一部損壊で自宅再建の目途が立たず長期滞在を希望する人のニーズを自宅視察しながら調査し、一覧表作成および課題整理する。移転先および避難所移動について検討する。

12:30 珠洲市健康増進センターに打ち合わせ

避難所の環境および避難所における支援の充実方法、避難所移動について検討

14:50 避難所避難者のご自宅 1 名訪問

16:00 独居高齢者への訪問 5 名

精神的に不安定な独居高齢者については、前回受診日、次回受診日、内服状況、自宅損壊状況を確認し、保健師と相談する。明日、担当保健師訪問と早めの受診を検討。

17:30 珠洲市健康増進センター（保健医療福祉調整本部）にてミーティング

本日の課題について議論

18:00 活動終了

## 6. 考察

本日は、震度4および震度3の地震が発生した。地震学の専門家からの情報では、活動域が幅を広げながら、北東に伸びだしている。つまり、以前から注目されていた海底断層が北西部に位置しているため、活断層型の地震発生に繋がらないかを懸念しているということである。このような状況の中、注意すべきことは、応急危険度が赤と判定された自宅で日中片付けをしている住民の安全対応である。更には、避難所にも来れずにサービスも受けていない社会的孤立状態の独居高齢者への対応を早急に検討することである。しかし、独居高齢者や障害者宅を巡回する人員が不足している。全壊9棟、半壊9棟、一部損壊452棟（5月10日現在）と示されているが、余震状況からも数値は更に増える可能性が高いと考え、在宅訪問をできるだけ迅速に行う体制づくりが重要である。

正院小学校の避難所はレイアウトなど工夫されており、日々生活環境課題を明確にしながらか対応しているが、玄関の段差や手すりなど要配慮者に適した環境とは言い難い。更に、小学校は教育目的の施設であるため、学業の妨げにならないように避難所移動を含めて検討が必要である。本日、避難所生活継続調査を実施したが、避難所継続希望が多く、本日も入居者が増えた。今後、修復の目途がたたない在宅高齢者が入居してくる可能性は高い。

上記のことからも、支援者確保は重要な課題である。

明日からボランティアセンターが稼働するため、ボランティアの効果的な活用の検討や地元団体への働きかけなど、現状や課題を提示しながら協働のあり方を模索する必要がある。

## 7. 課題

- 1) 避難所環境を継続して整えること（アセスメントシートの作成）
- 2) 在宅避難者の迅速な調査と健康管理
- 3) 地元団体など人的資源の活用

## 8. 参考写真



正院小学校避難所玄関、椅子を設置



搬入されたウレタンマットレス



避難所で生活している  
被災者宅内



5/11 から開設予定の  
ボランティアセンター